



Pure 純 No.181 Pacific パ Sep.2015

純パの会会報「純パ」第181号

2015年9月26日発行／発行：純パの会

2010年代は「ホークスの時代」になるのか？ 影山 一義

9月17日、福岡ソフトバンクホークスが2年連続となるパ・リーグ優勝を果たした。

イーグルスが優勝した一昨年(2013年)にBクラスに終わったことを受けて、李大浩を筆頭に中田、鶴岡、岡島、スタンリッジ、サファテ等の巨大補強を敢行。パファローズとのマツチレースを経て、チームのレギュラーシーズン最終戦となる昨年10月2日に松田のサヨナラホームランで優勝を決めてから、わずか350日。今シーズンはドラフト以外での選手の補強はバンデンハークと松坂大輔にとどまったものの、下馬評通りの実力をフルに発揮し、2位のファイターズに14.5ゲーム差もの大差をつけての優勝は、パ・リーグ史上最速のスピート、また史上2番目となる16試合もの残り試合を持つての、余裕ある優勝だった。しかも他のパ5球団にはすべて勝ち越し、セ・リーグ各チームとの対戦になる交流戦でも唯一カープには負け越したものの最高勝率(首位)で制し、そしてファームもカープを逆転して、ウエスタン・リーグ史上初となる4連覇。ぐうの音も出ない強さというのは、まさにこういうのを言うのかもしれない。

ホークスがここまで強くなった最大の要因としては、やはり豊富な資金力をバックに、必要なところに的確に資金投入をしていることが挙げられると思う。ダイエー時代からチームに対しては積極的に投資を進めてきたように感じたのだが、親会社ソフトバンクに変わってからは、より一層、投資すべきところに的確に資金を注いでいるように感じる。その投資先も、選手補強はもちろんだが、それ以上に三軍制度の導入を筆

頭にした育成面への投資に限らず、ヤフオクドームに今季から設けられた「ホームランテラス」や、宮崎のキャンプ地や福岡県筑後市に完成するファームの新本拠地などの施設に対する投資。そして「鷹の祭典」での全員配布ユニフォームに代表されるファンに対する投資など多岐にわたる。

かつてならば、特にホークスの場合は外国人選手に対しての補強について、大金をドブに捨てるようなケースが多々あったように思えたように感じたのだが、その経験を経たからか、むしろ育成面を着々と強化することによって、現在のレギュラークラスの選手を育て上げ、それで足りない部分については的確に補強をしてきたように思える。そして年々着々とレギュラーと控えの戦力差を縮めてきたことの成果が、今季については一軍では2連覇、そして二軍ではウエスタン・リーグ史上初となる4連覇に結びついたように思える。まさに、「ホークス黄金時代」の到来を印象づけた、今年のペナントレースだったように思えてならない。

今シーズンに関しては、まだクライマックスシリーズや日本シリーズも控えているし、なによりまだ全日程も終了していないのにこういうことを考えるのもどうかとは思っているのだが、はたしてホークスに對抗できるパ・リーグのチームが出現するのだろうか？ 今や最強戦力を有するホークスに対して真つ向勝負でくるのか、知恵を絞って挑むのか、その戦い方はともかく、来シーズンは安易にホークスに独走されないようなペナントレースをパの5球団には望みたいと、強く感じている今日この頃である。